

平成26年度 学力定着実態調査の結果及び改善計画

尾道市立 重井 中学校

国語

【今年度の結果】

分類	区分	全国	尾道市	自校	全国との差
基礎・活用	教科全体	67.9	70.7	60.4	-7.5
	基礎	70.4	72.7	63.4	-7.0
	活用	59.0	63.4	50	-9.0
領域	話すこと・聞くこと	74.7	77.2	82	7.3
	書くこと	69.5	69.8	66.9	-2.6
	読むこと	62.3	64.8	47.4	-14.9
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	70.1	74.2	62.5	-7.6
観点	国語への関心・意欲・態度	69.5	71.0	73.3	3.8
	話す・聞く能力	74.7	77.2	82.0	7.3
	書く能力	66.3	67.4	65.1	-1.2
	読む能力	62.3	64.8	47.4	-14.9
	言語についての知識・理解・技能	69.7	73.7	62.0	-7.7

【来年度の「基礎・基本」定着状況調査における目標値】

	教科全体	タイプⅠ	タイプⅡ
平成27年度	+2	+2	+2

※県平均との差を記入する。

R 重点課題(観点)

**1. 読む能力**  
 ①文学的文章において、登場人物の心情の変化をとらえ、それを整理してまとめること。  
 ②文学的文章において、場面の展開に即して内容をとらえること。

**2. 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項**  
 ①小学校で学習した漢字を書くこと。  
 ②修飾語などの文法事項について基礎的な理解をすること。

P D 重点課題に対応した日常的な指導内容及び方法

1-①授業の中で、登場人物の心情の変化を読み取るための具体的な視点を丁寧に指導する。(心情表現や情景描写)

1-②読書推進活動の活性化を図り、興味をもって文学作品に読み慣れさせる。(ブックトークを継続する)

2-①週1回の漢字テストに向け、毎日の漢字練習の宿題を効果的にやりきらせ、習得をめざす。

2-②系統的な文法学習を計画的に行う。

C 検証スケジュール

1. 2学期期末テストで検証問題を実施。

2. 1月に漢字および文法事項の検証問題を実施。

平成26年度 学力定着実態調査の結果及び改善計画

尾道市立 重井 中学校

社会

【今年度の結果】

分類	区分	全国	尾道市	自校	全国との差
基礎・活用	教科全体	50.1	53.5	40.2	-9.9
	基礎	52.9	55.9	42.6	-10.3
	活用	34.0	39.6	26.7	-7.3
領域	世界の地域構成	70.8	76.2	66.7	-4.1
	世界各地の人々の生活と環境	62.4	63.6	52.5	-9.9
	世界の地域構成諸地域	44.0	47.9	32.1	-11.9
	古代までの日本	47.8	53.9	41	-6.8
観点	中世の日本	39.5	35.1	20.3	-19.2
	社会的事象への関心・意欲・態度	41.4	45.6	32.9	-8.5
	社会的な思考・判断・表現	41.7	44.5	31.8	-9.9
	資料活用の技能	52.4	55.0	40.4	-12.0
	社会的事象についての知識・理解	49.7	53.3	40.8	-8.9

R 重点課題(観点)

1. 社会的事象への関心・意欲・態度

①身近な社会的事象を通して、社会科を好きにさせる。

2. 資料活用の技能

①地理分野  
世界の諸地域について、ヨーロッパ州と北アメリカ州の資料を読みとる復習を行う。

②歴史分野  
中世を中心に、各時代の資料を読みとる復習を行う。

3. 社会的事象についての知識・理解

①長期的・計画的に基礎的事項の定着を図る。

P D 重点課題に対応した日常的な指導内容及び方法

1-①  
・地域を探索するなど地域学習を行い、社会科への興味・関心高める。  
・知識を持つことの楽しさを体験させるため、学習単元毎に基礎力評価テストを実施する。

2-①  
「社会の総仕上げ問題集」(東京書籍)を活用し、世界の諸地域について、要点整理を行うとともに、資料活用の問題を繰り返し行う。(授業の中で・宿題として・同じ問題による評価テスト)

2-②  
「社会の総仕上げ問題集」を活用し、各時代の要点整理を行うとともに、資料活用の問題を繰り返し行う。(授業の中で・宿題として・同じ問題による評価テスト)

2-①②  
資料活用の問題について、授業の中で考える時間を多くする。

3-①  
日常的に「社会の総仕上げ問題集」(東京書籍)(要点整理と問題)を、2年次の最初から2年間かけて何回も繰り返しやっていくことで、達成感をもたせ、自信を高める。(授業の中で・宿題として・同じ問題による評価テスト)

C 検証スケジュール

・今回の標準学力検査問題を、解説しながら解答するとともに、問題に関連する基礎的事項も整理する。(7月に実施)

・2学期の末に、同じ問題で試験を実施し、検証する。

・再び正答率が低い問題については、解説と評価テストを繰り返す。

平成26年度 学力定着実態調査の結果及び改善計画

尾道市立 重井 中学校

数 学

【今年度の結果】

分類	区分	全国	尾道市	自校	全国との差
基礎・活用	教科全体	68.4	65.4	54.9	-13.5
	基礎	72.8	69.2	59.8	-13.0
	活用	52.0	50.8	36.7	-15.3
領域	数と計算	79.7	76.7	68.3	-11.4
	量と測定	67.1	65.0	53.1	-14.0
	図形	73.9	68.9	51.8	-22.1
	数量関係	53.7	51.2	43.2	-10.5
観点	数学への関心・意欲・態度	54.6	53.2	35.9	-18.7
	数学的な見方や考え方	55.0	53.0	38.7	-16.3
	数学的な技能	74.0	72.0	62.0	-12.0
	数量や図形などについての知識・理解	64.1	58.6	48.2	-15.9

【来年度の「基礎・基本」定着状況調査における目標値】

	教科全体	タイプⅠ	タイプⅡ
平成27年度	+6	+6	+3

※県平均との差を記入する。

R

重点課題(観点)

P

D

重点課題に対応した日常的な指導内容及び方法

C

検証スケジュール

**1. 数学への関心・意欲・態度**  
 ① 文章問題から数量関係を取り出し式をつくるのに必要な考え方や工夫ができる。  
 ② 比例関係を生かして、求めることができる。

**2. 数学的に見方や考え方**  
 ① 縮図を使って実際の長さを求める。  
 ② 比を使って、使う量を求めることができる。

1-① 手順を示し、求め方を具体的に既習させる。  
 ・何を求めるか  
 ・数量関係を抜き出す  
 ・ことばの式で表す  
 ・立式  
 ・単位  
 求め方を手順を常に示し既習事項の一つとして意識して進める。  
 1-② 日常生活の事象に照らし合わせながら、求め方や考え方を導びく学習展開をする。  
 2-① 相似図形の内容は3年生で行うが、1年生では、合同な図形の移動のところでまず対応する辺や頂点について、方眼紙へいろんな向きにして合同三角形を書く学習を丁寧に行う。  
 2-② 割合や比を用いた問題を日常生活から取り入り、積を用いて求めることを体得させる。また、定期試験や章テストで繰り返し出題し理解度を分析する。

・通年を通してワークシートに文字式をつくる文章題を出題し練習する。  
 ・章テストや定期テスト、類似な問題で試験を実施し、検証する。  
 ・学習用のワークシートから定着度を測り弱いときには、繰り返し出題する。

平成26年度 学力定着実態調査の結果及び改善計画

尾道市立 重井 中学校

理科

【今年度の結果】

分類	区分	全国	尾道市	自校	全国との差
基礎・活用	教科全体	63.6	59.4	50.8	-12.8
	基礎	63.5	59.3	52.4	-11.1
	活用	64.0	59.8	43.8	-20.2
領域	物質・エネルギー	63.2	58.1	54.8	-8.4
	生命・地球	63.8	60.2	48.0	-15.8
観点	自然事象への関心・意欲・態度	60.6	54.6	50.0	-10.6
	科学的な思考・表現	62.1	57.2	46.5	-15.6
	観察・実験の技能	75.3	70.6	63.6	-11.7
	自然事象についての知識・理解	62.0	58.4	51.2	-10.8

【来年度の「基礎・基本」定着状況調査における目標値】

	教科全体	タイプⅠ	タイプⅡ
平成27年度	+8.6	+6.9	+16

※県平均との差を記入する。

R

重点課題(観点)

P

D

重点課題に対応した日常的な指導内容及び方法

C

検証スケジュール

1. 科学的な思考・表現

①観測者と天体との位置関係を捉え、太陽からの光の当たる面と、観測される天体の形状との関係を見いだすこと。

②紙面上の情報を基に空間を認識し、その状況を推測すること。

2. 観察・実験の技能

①基礎的・基本的な知識・技能を活用し、観察・実験の結果などを分析し解釈すること。

②実験の目的が意識されていないこと。

1-①  
観察が難しい事象については、立体模型等、三次元の教材を基に学習を展開する。

1-②  
ICTの活用により、紙面上の情報との比較をさせ、視覚的な認識の拡がりを図る。

2-①  
学習課題に対して、「実験で何を検証するのか」ということを確認した上で、仮説を立てさせてから観察・実験を行わせる。

2-②  
観察・実験の考察において、「この実験は何を目的としていたか」、そのために「どのような実験を行ったのか」を考えさせる。

・今回調査を実施した学年に対し、1学期・2学期に問題解説や解き直しを行う。

・2学期、3学期に同一の問題を行い、再度実態調査を行う。その中で正答率の低い問題について、繰り返し同一問題、類似問題を続ける。